

第5回懇談会の主な意見等

<改築規模について>

- 学級数が想定より増えた場合、特別支援の生徒も増えており、少人数教室のニーズは高いため、少人数教室をつぶさなくていいような方法を考える必要がある。
- 外国人の言語教室や、教育相談室が混んで入れないときなど、少人数教室へのニーズは高まっている。
- 肌感覚ではあるが、松庵小学校の児童数は増えており、10学級で足りるのか心配である。
- 今後、35人学級、さらには30人学級となっても教育環境に支障がないように改築規模を考えてほしい。
- 約20年前に一部校舎を改築した際の将来推計では、最大でも9学級で推移するとされていたが、実際は10学級以上であった。
- 高井戸第四小学校の生徒数が減っていたときに特別支援学級を配置したが、結果的に増えたため教室が足りていない。生徒数の推移は読めない部分もあるため、子どもたちが不便をしないよう整備してほしい。
- この地域は教育環境を含め、住みやすいといわれており、地方から転居してくる人がいる。
- 私立中学志望の子どもも、公立校が改築すれば受験を見送る可能性がある。
- 松庵町会の地域では40代が多く、学齢期の子供が増えていくと予想できる。さらに、古い戸建てがマンションになり、人口が増えるのではないか。
- 少子化ではあるが、男子は体が大きくなる時期である。教育の多様化に対応する準備ができているのか、足りないものを入れて整備するのか、疑問である。

<複合化パターン・配置計画について>

- パターンの検討に当たっては、パターン②(学校+集会施設)やパターン③(学校単独)の平面図も確認していきたい。
- パターン②(学校と集会施設の複合化)は、パターン①(学校と図書館の複合化)に比べてイメージがもちやすい。中学校としては、様々な地域人材の活用や連携がやりやすいし、逆に集会施設に来る方は、中学生の声を聞いて元気もらえるなど、相乗効果があると思う。
- 図書館規模の問題はあるが、校庭が最も広くとれ、コストも低いという点で、パターン③がよいと思う。
- これからの図書館のあり方等を考えるとき、学校との融合というよりは、社会教育施設同士の複合化である、パターン③がより有効であると思う。

- パターン①のソフト面に「休校日等の学校不要時に図書館利用者が学校図書館等を利用」と書かれているが、学校図書館の貸し出しは難しいのではないか。
- 学校と図書館の複合化ありきで懇談会が進められるのではないかと感じていたが、3つのパターンを見て、様々な可能性があると思った。よりよいものとなるよう、区と一緒に考えていきたい。
- 北配置・南配置でも、東側に校舎が建つため、特に東側の近隣の方との調整が必要である。
- 北側の自動車学校が8月末で閉校すると聞いている。難しいとは思いますが、もし用地が活用できれば、様々な課題解決に道が開けるのではないか。
- 効率化が複合化の大きな目的の一つであり、その意味でコストシミュレーションもより精緻に示していく必要がある。
- 仮設校舎はコスト面の負担が大きく、現実的な校舎配置は南側になる部分もあると思う。
- パターン②では、ひとまず図書館は長寿命化改修にして、将来建て替えることとなるため、その点も踏まえたコストシミュレーションが必要である。
- ソフト面とハード面のメリット・デメリットをより丁寧に比較検討していくべきである。
- 保育園については、現在の敷地内での改築がなぜできないのか、それができないとしても、建替え用地がほかにはないのか、ビル内への仮移転の可能性などがないのか、それらについても説明が必要ではないか。